



すどうあきお通信

発行元：公明党北区議会議員すどうあきお <https://www.sudou-akio.com/>

すどうあきおが推進

3月から東洋大学の学生が 都営住宅に入居します

東京都と東洋大学の連携協定に基づいて、3月から、東洋大学の学生が近隣の都営住宅に入居することが決定しました。
まず、桐ヶ丘団地に入居が始まります。

地域の皆さまからのたくさんのお声におこたえして昨年11月、すどうあきおは大松あきら都議と共に、都知事に要望書を提出。都と東洋大学の連携を進めることや、都営住宅の活性化に向けた空き住戸の活用を求めてきました。

同12月には、両者の間で連携協定が結ばれ、このほど学生の都営住宅への入居と地域活動への参加が実現することになったのです。

団地地域では、高齢化が進み、掃除をはじめ、地域パトロールや防災訓練などの担い手が減少しています。一方、東洋大学の学生にとっても、団地への入居と地域活動への参加は、将来へ向けた貴重な学びの場となることでしよう。

すどうあきおは、伝統ある団地地域の活性化をはかるとともに、東洋大学との連携による教育・福祉・防災の街づくりにも全力を注いでまいります。



都営住宅の活性化へ

都が東洋大と連携協定

東京都と東洋大学は昨年12月、高齢化が進む都営住宅や地域コミュニティの活性化をめざす相互連携・協力協定を結んだ。都と同様の協定を結ぶのは6大自治体。この協定は、同大の学生が赤羽台キャンパスに一般よりも安い家賃で入居できる代わりに、自治会に加入して地域活動に参加してもらうもの。都の担当



赤羽台キャンパス近くの住民と懇談する（左端から）大松都議、すどう区議

者は「定員は今後、検討する」としている。公明党の大松成都議、すどうあきお区議（区議選予定候補）は昨年11月、小池百合子知事に宛てた要望書の中で、区内の都営住宅再生に向けた空き住戸の解消や、都と大学の連携を進めることなどを求めている。赤羽台キャンパス近くの都営住宅に住む小林京子さんは、「自治会員で行う掃除も一苦勞。若い人がいると助かる。多世代での交流が増えれば活気が生まれると思う」と期待を込めた。大松都議、すどう区議は、「大学と近隣住民の協力による地域活性化を、今後も後押ししたい」と応じた。

NEW TOPIC

たいじょうほうしん

带状疱疹ワクチンの 助成にも全力

50歳以上を対象とした

「带状疱疹ワクチン」の区による助成にも全力を注いでいます。

現在、区の予算案に計上されましたので、3月まで続く区議会において採決に至るよう、取り組んでいきます。

